

## WG 活動報告

### 19: GVHD 予防法と GVHD

#### 1. WG メンバーリスト

氏名	所属	診療科
責任者 村田 誠	名古屋大学医学部附属病院	血液内科
木藤 克之	滋賀医科大学附属病院	無菌治療部
足立 壮一	京都大学医学研究科	人間健康科学系専攻
大島 久美	広島大学病院	血液内科
仲宗根 秀樹	Stanford University School of Medicine	Division of Blood and Marrow Transplantation
稲本 賢弘	国立がん研究センター中央病院	造血幹細胞移植科
東梅 友美	ミシガン大学がんセンター	血液・腫瘍内科 BMT プログラム
綿本 浩一	愛知県厚生農業協同組合連合会 江南厚生病院	血液・腫瘍内科
内田 直之	国家公務員共済組合連合会 虎の門病院	血液内科
吾郷 浩厚	島根県立中央病院	血液腫瘍科
中根 孝彦	大阪市立大学医学部附属病院	血液内科・造血細胞移植科
瀬尾 幸子	Fred Hutchinson CRC	Infectious Disease Division
酒井 リカ	(独)神奈川県立病院機構 神奈川県立がんセンター	腫瘍内科
高見 昭良	金沢大学附属病院	血液内科
池亀 和博	兵庫医科大学病院	血液内科
矢野 真吾	東京慈恵会医科大学附属病院	腫瘍・血液内科
桑原 英幸	横浜市立大学附属市民総合医療センター	血液内科
加藤 剛二	名古屋第一赤十字病院	小児医療センター血液腫瘍科
高塚 祥芝	公益財団法人慈愛会 今村病院分院	血液内科
寺倉 精太郎	名古屋大学医学部附属病院	血液内科
西脇 聡史	名古屋大学医学部附属病院	血液内科
古川 達雄	長岡赤十字病院	血液内科
森 毅彦	慶應義塾大学医学部	血液内科
塚田 信弘	日本赤十字社医療センター	血液内科
横山 洋紀	東京慈恵会医科大学附属病院	腫瘍・血液内科
永田 泰之	浜松医科大学	血液内科
諫田 淳也	自治医科大学附属さいたま医療センター	血液科
森島 泰雄	愛知県がんセンター研究所	疫学・予防部
田中 淳司	東京女子医科大学病院	血液内科
宇都宮 與	公益財団法人慈愛会 今村病院分院	血液内科
垣花 和彦	がん・感染症センター 都立駒込病院	血液内科
高木 伸介	国家公務員共済組合連合会 虎の門病院	血液内科
福田 隆浩	国立がん研究センター 中央病院	造血幹細胞移植科
磯山 恵一	昭和大学藤が丘病院	小児科
豊嶋 崇徳	北海道大学病院	血液内科
芦田 隆司	近畿大学医学部附属病院	血液・膠原病内科
和氣 敦	国家公務員共済組合連合会 虎の門病院分院	血液内科

高松 博幸	金沢大学医薬保健研究域医学系細胞移植学	血液内科
梅田 雄嗣	京都大学大学院医学研究科	発達小児科学
小林 真一	防衛医科大学校病院	血液内科
杉田 純一	北海道大学病院	血液内科
西田 徹也	名古屋大学医学部附属病院	血液内科
今橋 伸彦	名古屋大学大学院医学系研究科	血液・腫瘍内科学
近藤 忠一	京都大学医学部附属病院	血液・腫瘍内科
西森 久和	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科	血液・腫瘍・呼吸器内科学
伊藤 歩	国立がん研究センター中央病院	造血幹細胞移植科
大中 貴史	小倉記念病院	血液内科
後藤 守孝	東京医科大学病院	血液内科
森下 剛久	愛知県厚生農業協同組合連合会 江南厚生病院	血液・腫瘍内科
吉永 健太郎	東京女子医科大学病院	血液内科
松岡 賢市	岡山大学病院	血液・腫瘍内科

## 2. 承認研究の進捗状況(2013年1月-12月 ※JSHCT2014を含む)

19-1	「シクロスポリンおよびタクロリムスによるGVHD予防法の比較検討」 PI:酒井リカ
学会発表: 済(WG研究業績一覧参照)	
論文業績: 投稿中	
19-2	「血液悪性腫瘍に対する同種造血細胞移植における抗リンパ球グロブリンの臨床的検討」 PI:加藤剛二
学会発表: 済(WG研究業績一覧参照)	
論文業績:	
19-3	「前処置別の急性 GVHD のリスク因子解析」 PI:仲宗根秀樹
学会発表: BMT Tandem meetings 2014	
論文業績:	
19-5	「既存データを用いた年齢別の急性 GVHD 発症後の予後の検討」 PI:中根孝彦
学会発表: 済(WG研究業績一覧参照)	
論文業績:	
19-6	「急性 GVHD に対するステロイド一次治療の成績」 PI:村田誠
学会発表: 済(WG研究業績一覧参照)	
論文業績: Murata M, Nakasone H, Kanda J, Nakane T, Furukawa T, Fukuda T, Mori T, Taniguchi S, Eto T, Ohashi K, Hino M, Inoue M, Ogawa H, Atsuta Y, Nagamura-Inoue T, Yabe H, Morishima Y, Sakamaki H, Suzuki R. Clinical factors predicting the response of acute graft-versus-host disease to corticosteroid therapy: an analysis from the GVHD Working Group of the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation. <i>Biol Blood Marrow Transplant.</i> 2013; 19(8): 1183-9.	
19-7	「GVHDとTMAの関連性の検討」 PI:吾郷浩厚
学会発表: 済(WG研究業績一覧参照)	
論文業績:	
19-8	「既存データを用いた臓器別慢性 GVHD の発症様式、発症頻度、予後の解析」 PI:諫田淳也
学会発表: 済(WG研究業績一覧参照)	
論文業績: Kanda J, Nakasone H, Atsuta Y, Toubai T, Yokoyama H, Fukuda T, Taniguchi S, Ohashi K, Ogawa H, Eto T, Miyamura K, Morishima Y, Nagamura-Inoue T, Sakamaki H, Murata M.	

Risk factors and organ involvement of chronic GVHD in Japan. <i>Bone Marrow Transplant</i> . 2013 (in press)	
19-9	「一元化管理事業データに基づく造血幹細胞移植後の閉塞性細気管支炎の解析」 PI: 仲宗根秀樹
<b>学会発表:</b> 済(WG 研究業績一覧参照) <b>論文業績:</b> Nakasone H, Kanda J, Yano S, Atsuta Y, Ago H, Fukuda T, Kakihana K, Adachi T, Yujiri T, Taniguchi S, Taguchi J, Morishima Y, Nagamura T, Sakamaki H, Mori T, Murata M; GVHD Working Group of the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation. A case-control study of bronchiolitis obliterans syndrome following allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. <i>Transpl Int</i> . 2013; 26(6): 631-9.	
19-10	「GVHD と GVL 効果に対するドナーとレシピエントの性別の影響」 PI: 大島久美
<b>学会発表:</b> 済(WG 研究業績一覧参照) <b>論文業績:</b>	
19-11	「再発リスク症例における GVHD 発症と GVL 効果の相関に関する研究」 PI: 諫田淳也
<b>学会発表・論文業績:</b>	
19-17	「ガンマグロブリン予防投与の有無が GVHD 等の造血幹細胞移植成績に及ぼす影響: 後方視的解析」 PI: 高松博幸
<b>学会発表・論文業績:</b>	
19-18	「同種造血細胞移植後の急性 GVHD 発症時期が移植予後に与える影響についての検討」 PI: 内田直之
<b>学会発表・論文業績:</b>	
19-19	「小児急性骨髄性白血病同種移植症例におけるシクロスポリン持続点滴法と分割静注法の有効性と安全性の比較検討」 PI: 梅田雄嗣
<b>学会発表:</b> JSHCT2014 第 36 回日本造血細胞移植学会総会(平成 26 年 3 月 7 日-3 月 9 日), 沖縄 <b>論文業績:</b>	

### 3. 会議開催記録(2013 年 1 月-12 月)

日時	場所	会議内容
2013/1/14	国立がん研究センター 中央病院	各研究課題の進捗状況の報告、二次調査を要する研究の進め方についての議論など
2013/7/7	名古屋第一赤十字病院	各研究課題の進捗状況の報告、TRUMP 調査項目変更の提案など

### 4. メーリングリストによる意見交換 (メーリングリスト開設から 2013 年 12 月末時点まで)

( 661 )回

### 5. WG の今後の活動方針・抱負など

同種移植における GVHD の制御は移植の成否の鍵であり、当 WG ではその責務を果たすため、発足当初よりメンバー間で活発かつオープンな議論がなされています。各研究課題は精力的に進められており、既に、急性 GVHD に対するステロイド一次治療の有効率および有効率に影響を与える因子を明らかにした研究(村田ら)、慢性 GVHD の発症率および発症率に影響を与える因子を明らかにした研究(諫田ら)、慢性 GVHD の中でも特に生命予後に与える影響が大きい閉塞性細気管支炎の発症危険因子を明らかにした研究(仲宗根ら)は論文化に至っております。今年度に新たに加わったメンバーからも早速新しい研究が提案されており、また得られた結果に基づいて TRUMP 調査項目変更の提案も行っています。今後、より一層の成果を発信すべくメンバー一同鋭意努力するところであり、引き続き、新メンバーの加入を歓迎いたします。